

自由進度学習はじめの一步～学習者が自律的に学ぶ姿を求めた3年間～

千曲市立五加小学校 蟹澤和哉

1. 研究のはじまり

- 本校で語られる子どもの姿
学校教育目標「自主・自律」の力を高めたい
言われたことはしっかりやるが、受け身である
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実(文科省2021)
指導の個別化・学習の個性化
可能な限り学びを子どもに委ねる(奈須2022)
- 信州大学教職大学院での学び
「教師の授業」に子どもたちは付き合っている」という
伏木久始教授の言葉

2. 目的

自由進度学習に挑戦し、個の学び・友と協働する学びの環境を整え、子どもたちの幸せにつなげること

竹内(2019)が示すように、自由進度学習を「教科の一人学び」と定義した。教師が計画する学習内容の枠の中で、子ども一人一人が課題を自己決定し、計画を立てて自分の学習を進め、その過程で友だちと関わりながら、学びを深めることを目指すものとした。

3. 方法

- 先行研究をもとに教材研究および授業実践
- 期間および対象 R3.7月～R5.7月末 担任した学級児童および同学年児童(R3・R4は本学級児,R5は6学年2学級)

4. 実践

I 期 2021年 7月 4年算数「2けたでわるわり算の筆算」

単元の流れ・つける力を共有し、教科書を活用

●家庭学習に「けテぶれ」(葛原2019を参考)

単元内自由進度学習を進めます

①個人それぞれの進度で教科書を使いながら、学習を進めます

②友だちに相談は、どんどんしましょう

③先生に相談は、どんどんしましょう

④途中、全体で共有したり、確認したりする時間をとります

⑤クリアすべき課題は、出しておきます

戸惑う子・ワクワクする子

2けたでわるわり算

つける力① 3けた÷2けたを筆算でできる

つける力② 2けた÷2けたを筆算でできる

つける力③ 2けた÷2けたを筆算でできる

つける力④ 2けた÷2けたを筆算でできる

教科書に沿った単元展開

けテぶれ(葛原2019) 家庭学習計画表(4月から継続)

4学年 家庭学習計画表

自己学習力メタ認知

計画に合わせた独学力を磨く



生き生きした一人学びと寄り添う教師
(スウェーデンでの海外実習)
「I respect all children. Respect is very important.」(恩師Camila先生)

教示する教師

教示に合わせる子ども

学び方を伝える教師

学び方に合わせる子ども

教え・教えられの関係(筆者考案)

II 期 2022年 9月 5年社会「あたたかい・寒い土地の暮らし」

●単元の一部を自由進度学習・友と関わる場を設定

●友だちと異なった視点で話し学び合う

S児：気温と降水量の視点から

H児：月別平均気温の視点から

沖縄と北海道の気候を比べよう

北海道の気候と疑問点

沖縄県の気候と疑問点

文化や観光に着目

III 期 2023年 5～7月 6年社会「武士の世の中」算数「分数のわり算」の2教科同時
算数「資料の調べ方(まとめ)」と図工「音のする絵」の2教科同時

●4つの段階(ガイダンス→計画→追究→まとめ)(竹内2019)で構想

●「今どこシート」で経過を共有

学習の手引きを確認

学びの計画づくり

自由進度学習計画表

自由進度学習計画表

自由進度学習計画表

5. 実践を通して

(1)学校としての取り組み

- 「自分も幸せ みんなも幸せ」な五加小を合言葉に、「立ち止まる→考える→動く→ふりかえる」のサイクルで子どもも職員も生活し、学校教育目標の具現化を目指した。子どもの学びと教師の支援のあり方を再考してきた。
- プロジェクトが立ち上がり、5年後の目指す子どもの姿から五加スタイル構築の議論が進んだ。「知る→やってみる→見合う→次へつなげる」の段階で自由進度学習を構想し、校内でも実践にチャレンジする学級が出てきた。

(2)全国学力・学習状況調査より(全国・県平均比)

上回る

上回る

大きく上回る

●条件に合う事柄を読み取る(データ活用)

●目的に応じて、自分の考えを書く(B書くこと)

●友だちとの話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる

●人と違う意見について考えるのは楽しい

●学校に行くのは楽しい

●人の役に立つ人間になりたい

学びに充実感をもち、自己有用感(北島(1999))を高めた

(3)自由進度学習における子どもの学びと教師の支援(筆者考案)

子どもたち

学びを自分で決定

自分のペース

子ども同士の聴き合い

自己評価の繰り返し

自由進度学習

教師

どのように学ぶか構想

個と協働の学びの見守り

アップとルーズで見る

学びを励ます支援

安心・安全で良好な人間関係が保障された環境

6. 今後に向けて

①どんな子どもを育てたいかの共有 ②子どもたちが学ぶとは、ということかの議論 ③目指す教師像の共有

参考文献・先行研究

- ・文部科学省(2021)、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)・奈須正裕(2022)「個別最適な学びの足場を組む」
- ・竹内淑子(2019)「教科の一人学び」「自由進度学習」の考え方・進め方・袁手草吾(2021)「子どもが自ら学び出す! 自由進度学習のはじめ方」・葛原祥太(2019)「けテぶれ」宿題革命! -子どもが自立した学習に変わる-
- ・ダグラス・フィッシャー、ナンシー・フレイ著、吉田新一郎訳(2017)「学びの責任」は誰にあるのか・北島貞一(1999)「自己有用感-生きる力の中核-